

## 2015 年度大学入試センター試験 解説〈倫理, 政治・経済〉

### 第1問 青年期, 現代社会分野 (配点 14)

問1  正解は①。

- ① 1992年に開催された地球サミット(国連環境開発会議)では、「持続可能な開発」を基本理念としたリオ宣言が採択されたほか、気候変動枠組み条約や生物多様性条約が締結された。
- ② 「エスノセントリズムを支持」が誤り。エスノセントリズム(自民族中心主義)とは、自民族の優越性を説いて他民族を抑圧するものであり、こうした姿勢はむしろテロリズムの温床となる。
- ③ 1997年に対人地雷禁止条約が結ばれたというのは正しいが、「アメリカや中国を中心に」というのは誤り。この両国は地雷の戦略的意義を重視することから、同条約に参加していない。
- ④ リプロダクティヴ・ヘルス／ライツとは、「性と生殖に関する健康・権利」と訳されるもので、性と生殖についての男女の平等を主張する理念。雇用機会均等を確立するためのものではない。

問2  正解は②。

- ② レヴィンはドイツ出身の心理学者。青年期を子どもと大人の中間的・過渡的存在としての「マージナル・マン」と呼んだ。
- ① 「退行」はフロイトが提唱した防衛機制の一つ。
- ③ かつてのヨーロッパでは子どもを独自の存在とするのではなく「小さな大人」と位置づけていたという指摘は、フランスの歴史学者フィリップ・アリエスによるもの。
- ④ 「ピーターパン・シンドローム」はアメリカの心理学者ダン・カイリーが命名したもので、これを日本に紹介した精神分析学者・小此木啓吾による「モラトリアム人間」の概念と近い。

問3  正解は⑧。

- a 「節制」が入る。プラトンは知恵・勇気・節制・正義を四元徳として位置づけた。プラトンによれば、人間の魂は三つの部分からなり、そのうち理性の徳が知恵、意志(気概)の徳が勇気、欲望の徳が節制とされ、この三つの調和がとれているときに正義が実現するという。「友愛」はアリストテレスが「正義」とともにポリスの結合原理として挙げているもの。

- b 功利主義の哲学者ミルの主著に当たるのが『自由論』。同書でミルは、人間の自由が最大限に尊重されるものだと論じ、自由が制約を受けるのはある行為が他者に危害を与える場合に限られるという他者危害原理を提示した。『正義論』は資料文のこのあとに出てくるロールズの著書名。
- c 正義論を説いた 20 世紀の政治哲学者ロールズが現代的に再興したのが社会契約説の考え方。ロールズによれば、当時支配的だった功利主義の考え方は、社会の富を最大化するものではあるにせよ、同時に社会的な不平等を是認するものであった。そこで彼は、自分の立場や境遇について一切無知である（無知のヴェール）と仮定したうえで、そのときに誰もが合意しうる正義の原理がないか検討しようと提案する。これは社会的に望ましい正義の原理についての合意を目指すものであり、その意味で功利主義とは根本から異なる社会契約説的な発想である。

問 4  正解は②。

- A 誤文。二つの図で示されているのは、およそ 1000 人のうち「幸せだと思う者」および「不安や悩みを抱えている者」の割合であるから、そこから特定の子の感じ方の変化を読み取ることはできない。
- B 正文。小学校 5・6 年生と中学生の数値の差の方が、中学生と高校生等の数値の差よりも大きいのは間違いなく、そこから青年期、特に思春期における心の揺らぎがこの結果に関係しているという仮説を立てるのは不合理ではない。
- C 誤文。誤りの点が複数あるが、さしあたり 2004 年の小学校 5・6 年生の図 1 と図 2 の数値についての評価について指摘すると、この調査方法では、幸せだと思う者が 77.3% であって不安や悩みを抱えている者が 55.4% であるからといって、そこからその差に当たる 21.9% の人が「幸せだと思っており、かつ、不安や悩みを抱えていない」と結論することはできない。

問 5  正解は④。

- ④ 必要なのは治療という「具体的対処」であるのに、「書斎」で考えるだけのパヌルーは、「人類救済」のお題目を説いて「顔の見える隣人」を助けようとしないと非難されている。
- ① 病が「身体の物理的な機能不全にすぎない」という機械論的な主張はなされていない。またパヌルーが死に過剰な意味を与えている（宗教的な意味づけ）という批判はなされているが、「勝手な治療を行う」とは述べられていない。
- ② 健康が大事だというのは正しいが、パヌルーが「自己の健康を二の次にしてしまう」といった批判は見られない。
- ③ 「宗教者」全般への批判はなされていない。ペストの惨禍に神学的な意味を与えてし

まうのは「書斎の人」だけであって、「つまらない田舎の司祭」でも生身の人間を知っていれば医師リウーと同様に感じるはずだとされている。

## 第2問 源流思想・日本思想 (配点 18)

問1  正解は③。

- a 「清き明き心」が入る。清き明き心とは裏表のない正直な心のありさまを指し、古代日本人において理想とされた心情である。
- b 「高く直き心」が入る。高く直き心とは、近世の国学者・賀茂真淵が『万葉集』の研究を通して見いだした古代日本人の心情のことで、儒教や仏教などとは違い、分別にとられない力強い心構えを意味する。
- 「真心」は賀茂真淵の弟子・本居宣長が古事記から見いだした日本人の心情であり、「事に触れて動く心」とされる。ありのままの素直な心という意味である。

問2  正解は②。

- ② 悟りに違いがあるというのは奈良仏教の一つ法相宗の僧侶・徳一が説いたもので、最澄は徳一を批判し、誰もが悟りに至れるという一乗思想を説いた。
- ① 最澄は「鎮護国家の考え方を否定」していない。鎮護国家思想は奈良仏教に顕著だが、平安仏教（最澄の天台宗および空海の真言宗）もこの傾向を引き継いでいる。
- ③ 最澄は、鑑真が伝えた正式な授戒儀式が小乗式のものであるとして、東大寺などで授けられる具足戒を否定し、自身の延暦寺で「大乘菩薩戒」を授ける戒壇の設立を許可してもらうよう朝廷に願い出していた（大乘戒壇設立運動）。
- ④ 『三教指帰』は最澄のライバル・空海の著作。儒教・道教と仏教を対比して仏教の優位性を説くものである。

問3  正解は③。

- ③ ブッダの四諦は、苦諦・集諦・滅諦・道諦からなる。このうち滅諦とは、煩惱を滅却することで苦しみから逃れた境地に到れるという真理を指し、道諦とは、そうした境地に至るための修行法（＝中道、八正道）があるという真理を指す。中道は、快楽と苦行という両極端をいずれも退ける修行法である。
- ①② 苦諦とは、人生がすべて苦しみであるという真理を指し、集諦はそうした苦しみの原因が煩惱の積み重ねによるという真理を指す。
- ④ 「あらゆる存在はいつか必ず滅ぶという真理」は、四法印のうち諸行無常のことである。また「禁欲的な苦行」はパラモン教やジャイナ教では重視されてきたが、仏教においては悟りを妨げるものとして、快楽とともに否定される。

問 4  正解は⑥。

- ア 居敬窮理を説くと同時に江戸時代の身分秩序を理論的に正当化する上下定分の理を説いたのは、江戸儒学の祖と位置づけられる藤原惺窩の弟子である林羅山。
- イ 万人直耕の自然世こそが理想であるとして、農民に寄生する武士たちのあり方を批判したのは、八戸で医師としても活躍した安藤昌益。安藤昌益は神道・儒教・仏教のいずれをも批判している。貝原益軒は、本草学者（植物学・薬物学）として知られた朱子学者。
- ウ 天道と人道によって成り立つ農業の意義を強調し、人の道として勤労や儉約、分度と推譲などを説いたのは農政学者の二宮尊徳。石田梅岩は京都で活躍した町人で、「正直と儉約」を旨とする町人道德を説いた石門心学の祖。

問 5  正解は①。

- ① 『論語』ではなく『老子』の言葉であり、「大道廢れて仁義あり」に続く儒家批判の一節となっている。儒家のいう仁義は本来の道が廢れてしまったからこそ説かれている人為的なものにすぎず、こざかしい知恵は人のためのものというより大嘘の道具となっている、といった意味である。
- ② 正しい。言葉巧みに愛想よくする輩に誠実な者はいない、といった意味である。
- ③ 正しい。「故きを温めて新しきを知る、以って師と為るべし」と続く。人にもものを教える者となるためには、古くからの教えを大切にしながら新しい知識を得ることが必要だ、といった意味である。
- ④ 正しい。親子愛こそが道德の根本である、といった意味。孔子の弟子であった有子の言葉として『論語』に出てくる。

問 6  正解は③。

- ③ 民俗学の祖とされる柳田国男は、日本人の精神を探究するにあたって、知識人の執筆した文献によらず、名もない民衆たち（常民）の生活のなかにそれを見出そうとし、常民の習俗や伝承を全国で収集した。
- ① 「主観のみが確かであることを立証する」が誤り。西田幾多郎は西洋的な主客二元論を批判し、主客未分の純粹経験を根本的実在とする。従って主観から独立した客観も、客観のない純粹な主観も反省によってのみもたらされたものにすぎないとされる。
- ② 「名のある芸術家」の創作に意義を見だしているという点が誤り。民芸運動の創始者である柳宗悦は、名もない職人たちがつくる日用品に真の美を見出した。
- ④ 戦後民主主義の理論的指導者と言える政治学者、丸山真男は、日本政治の決定的な問題を、指導者も人民も政治的決定への責任をとる覚悟のない「無責任の体系」にな

っている点に求め、近代的な主体性の確立を訴えた。新旧・東西の様々な文化が同居する雑種文化として日本文化を捉えたのは加藤周一。また直観による近代批評の確立者は小林秀雄。

問7  正解は④。

- ④ リード文の最終段落にほぼ対応する記述となっている。
- ① ただ「先人の学問を忠実に模倣」するだけでは、時代の課題を解決することができない。
- ② 知識を習得するだけであってはならないという趣旨は見られるが、知的な営みそれ自体が否定されているわけではない。
- ③ 「人間が直面する困難は次第に軽減されてきた」といった記述は見られない。

第3問 源流思想・西洋近代思想 (配点 18)

問1  正解は⑥。

- ア 誤文。『新約聖書』において、イエスは「わたしが来たのは律法や預言者を廃止するためだ、と思ってはならない。廃止するためではなく、完成するためである」と述べている。イエスにとって律法とはすなわち神の愛であって、律法の正しいあり方を示すことはあっても、それを否定するということはありえなかった。また、キリスト教において罪を贖う者はイエスであり、罪を贖う者が救われるという思想はない。
- イ 正文。ユダヤ教は人々の忠実な信仰とそれに対する神による救済という契約の宗教である。聖典『旧約聖書』には世界創造の物語、歴史書、預言書などが含まれている。
- ウ 誤文。イスラーム教では神の前で万人が平等であることが強調されるため、「聖職者」は存在しない。それ以外の記述は正しい。

問2  正解は③。

- ③ ベーコンはイギリス経験論の祖と位置づけられる。主著『ノヴム・オルガヌム (新機関)』において、彼は抽象的な思弁に終始するスコラ哲学を批判し、観察と実験、それに帰納法に基づく新しい学問の方法を提起した。
- ① ニュートンについての記述。『プリンキピア (自然哲学の数学的諸原理)』において、すべての自然現象を万有引力の法則によって説明することで、機械論的自然観を確立した。
- ② 著書名以外は、大陸合理論あるいは近代哲学の祖と言えるデカルトについての記述。
- ④ 著書名以外は、16世紀フランスを代表するモラリストのモンテーニュについての記述。主著は『エッセー (随想録)』で、悲惨な宗教戦争を前にして、自己の正しさを再吟

味する懐疑の重要性を強調する立場から「ク・セ・ジュ (私は何を知るか)」をモットーとし、寛容の精神を訴えた。

問3  正解は⑤。

ア オーウェンについての記述。18世紀から19世紀にかけて活躍したイギリスの社会主義者。マルクス以前の「空想的社会主義者」の一人に数えられる。

イ フーリエについての記述。「空想的社会主義者」の一人。フランスで活躍した社会主義者で、農業を中心とした協同組合の結合によって理想社会がつけられると説いた。

ウ バーナード・ショウについての記述。ショウはノーベル文学賞も受賞したイギリスの劇作家で、ウェップ夫妻らとともに、穏健な社会主義思想を特徴とするフェビアン協会の主要なメンバーである。

問4  正解は④。

④ 社会学の創始者として知られるコントは、その著書『実証哲学講義』において、人間の知が社会の進歩に対応した三段階で展開されるとして、経験的に確認できる事柄だけによって世界を説明する実証的段階が最高の段階であると説いた。

① アメリカのプラグマティスト、デューイについての記述。デューイは「道具主義」を標榜し、単なる死んだ知識ではなく、問題解決能力としての創造的知性に人間の可能性を見出した。

② フランスの実存哲学者サルトルについての記述。人間だけが自分の本質を自分で作りあげるとして、これを「人間は実存が本質に先立つ」と表現した。

③ ドイツ観念論を大成したヘーゲルについての記述。ヘーゲルは歴史を、主観的精神が絶対精神へと至る精神の自己展開の過程として把握した。

問5  正解は⑤。

a 『『純粋理性批判』』が入る。『純粋理性批判』はカントの主著で、理性(理論理性)によって認識できるものの限界を定めることを主題とする。『人間悟性論(人間知性論)』はロックの主著。

b 「感性」が入る。カントの認識論によれば、人間の認識は感性と悟性の協働によって成り立つ。まず感性において認識の対象が与えられなければ認識は始まらない。しかしこの対象はまだバラバラの素材に過ぎず、これを悟性がカテゴリーによって整理しなければ、対象を対象として把握することができないとされる。

問 6 18 正解は②。

- ② 書かれた言葉は相手を選ばず、「それを理解する人」だけでなく「まったく不適当な人々」のもとにも届けられることになり、誤解などが生じても正すのが難しい。これに対して語られる言葉は、適切な仕方と適切な相手に行われれば、対話の双方を「助ける力」をもち、言葉が「その命を不滅に保つことができる」とされる。
- ① 語られる言葉は「どのような対話者の魂をも育て」とあるが、資料文では、対話が「ふさわしい相手」に対して適切に行われる場合には種が実を結ぶことになるとされている。
- ③ 書かれた言葉は「誤って扱われ」ることがあるとされているので、「筆者の考えを正しく伝える」わけではない。
- ④ 書かれた言葉が「時とともに説得力を失う」とは言われていないし、「時代の価値観に即した内容」といった趣旨も資料文にはない。

問 7 19 正解は②。

- ② 近代的理性の意義と限界という定番のテーマである。理性は世界の法則的把握を可能にし、自然と人間を制御する技術をもたらした。しかしそうした理性あるいは科学がもたらした負の側面も無視することができない状況になっており、そのあり方を再検討すべきだというのがリード文の趣旨である。
- ① 理性が「対話的精神」であるというのは、リード文ではフランクフルト学派の第二世代（ハーバーマスのこと）にのみ当てはまる。また現代の課題を「危機管理を徹底すること」に還元するのは問題を矮小化するものと言える。
- ③ 理性がルネサンス期以降「どの時代においても重要視されてきた」とあるが、ルソーや構造主義をはじめ、理性のはらむ問題に自覚的な思想が出てきたことがリード文でも言及されている。また、「科学なしの世界にいったん戻って」という内容はない。
- ④ 理性と科学技術の意義を全面肯定しており、リード文の趣旨とはまったく合わない。

第 4 問 政治・経済総合問題（配点 14）

問 1 20 正解は④。

- ④ トラストの内容で、同一産業内での合併や合同のこと。カルテルとは企業連合のことで、同一産業内での競争排除のため、価格カルテルなどの協定を結ぶこと。トラストとは異なり企業の独立性は維持される。
- ①②③ いずれも正文。

問 2  正解は⑤。

国家の 3 要素は、**領域・国民・主権**である。

問 3  正解は③。

- ③ 日本で最も大きい差は、2012 年の 59.32 と、1980 年の 74.56 との **15.24**。イギリスで最も大きい差は、1974 年の 78.94 と、2001 年の 59.38 との **19.56** で、イギリスの方が差が大きい。
- ① 小選挙区比例代表並立制で初めて行われた総選挙は **1996 年**だが、最も高い投票率の選挙は 1980 年である。
- ② アメリカでは、直近の **2012 年**をはじめとして、大統領選挙と同時に行われる総選挙の投票率が高く、中間選挙の投票率は低い。アメリカでは議会の解散がなく、総選挙は常に 2 年ごと、大統領選挙は常に 4 年ごとに行われる。
- ④ アメリカで最も低い投票率の総選挙は、**1998 年**である。

問 4  正解は①。

- ① **特別会計**についての正しい記述。
- ② **政府関係機関予算**についても国会の承認は必要である。
- ③ **郵政民営化**の流れから言って反対の動きになる。郵貯・年金積立金は、金融市場を通じた自主運用になっている。
- ④ **補正予算**とは、当初予算成立後、天災・景気対策など、予算の過不足や内容変更が生じたときに、当初予算を修正して補正予算編成がされる。当初予算の国会審議中ではない。

問 5  正解は④。

日本、イギリス、ドイツの社会保障給付対 GDP 比と、その財源比較についての問題。対 GDP 比の表と財源構成のグラフを組み合わせで初めて分かる問題である。

社会保障財源構成のグラフで、公費負担割合が極めて多い **A** は、かつて「ゆりかごから墓場まで」をスローガンとした、福祉国家でもあったイギリスである。しかし、日本とドイツの判別はこのグラフのみではしにくい。そこで表の社会保障給付の対 GDP 比を見ると、**B**と**C**は「合計」で 26.2%と 19.3%と大きな開きがある。ここから、高福祉・高負担の**ドイツ**が **B**、中福祉中負担の**日本**が **C**と判断できる。

問 6  正解は①。

- ① 誤り。衆議院で可決された予算案が参議院で否決され、両院協議会で成案が得られなかった場合は、衆議院の議決がそのまま国会の議決となる。再可決の必要はない。
- ②③④ いずれも正文である。

第 5 問 人権と行政組織 (配点 18)

問 1  正解は②。

法律上婚姻関係のない男女から生まれた子(婚外子)の法定相続分を、嫡出子の2分の1とする規定は民法にあった。最高裁は1995年には、民法の規定は、憲法第14条の平等権に反せずとして合憲としたが、2013年には違憲の判断を下した。これに伴い、同年に民法が改正され、この規定は削除された。

問 2  正解は③。

- B 「児童福祉法」は1947年に制定。
  - D 「公害健康被害補償法」は1973年に制定。
  - C 「アイヌ文化振興法」は1997年に制定された。
  - A 「障害者の権利に関する条約」は2014年に批准。
- よって、3番目はCの「アイヌ文化振興法」となる。

問 3  正解は①。

- ① 通信の秘密は、憲法第21条2項に検閲の禁止とともに明記されている。
- ② 報道の自由はプライバシーの権利と衝突することがある。過剰取材などで平穏な市民生活が妨害される事例が多い。
- ③ 情報公開法には、政府の活動を国民に説明する責務は明記されたが、「知る権利」は明記されていない。
- ④ 2002年、最高裁は『石に泳ぐ魚』事件で、出版の差止めと慰謝料の支払いを認めた。

問 4  正解は③。

- ③ 憲法第25条が定める生存権であり、社会権に属する。
- ① 人身の自由に関する記述であり、自由権に属する。
- ② 選挙権は、政治および国家権力の行使に参加する権利で、参政権にあたる。
- ④ 精神的自由の一つであり、自由権に属する。ほかに精神的自由には、信教の自由、集会・結社・言論・出版の自由、表現の自由、検閲の禁止、通信の秘密、学問の自由がならぶ。

問 5  正解は③。

- ③ 誤り。検察審査会のメンバーは、有権者の中からくじ引きで選ばれる。国会議員ではない。
- ① 正しい。軍部の独走をコントロールするため、最高指揮権者を文民（非軍人）に限定する文民統制（シビリアン・コントロール）のこと。
- ② 正しい。国家公安委員会の記述。不当な政治勢力の介入を排除するため、警察行政を統括し調整する行政委員会の一つである。
- ④ 正しい。会計検査院は、内閣から独立した行政機関で、憲法第 90 条に規定がある。

問 6  正解は④。

- ④ 差別を積極的に是正するため、特別枠を設けるなどの優遇措置をとることをアファーマティブ・アクション（ポジティブ・アクション）という。
- ①②③ いずれも、男女平等な取扱いをする内容であり、積極的な是正措置ではない。

問 7  正解は①。

- ① 地方自治におけるリコールの規定。なお、知事などの首長のリコールは住民投票にかけられるが、副知事などのリコールは議会にかけられる。
- ② 一般職の公務員は争議権がないが、労働組合の結成は認められている。
- ③ 公務員を全体の奉仕者と規定するのは、日本国憲法第 15 条 2 項である。
- ④ 人事院は、一般職公務員の労働条件や人事行政を行う、現存の行政機関。廃止されてはいない。内閣人事局は、2014 年に設置された機関で、次官や局長などの幹部人事を、官邸主導で一元管理し、縦割りを排除することを目的として作られた。

## 第 6 問 経済のグローバル化（配点 18）

問 1  正解は②。

- ② サブプライムローン問題は 2007 年夏以降表面化し、2008 年のリーマン・ショックにはじまる世界金融危機を引き起こした。
- ① 日本は 2013 年から TPP の交渉に加わった。
- ③ EU におけるユーロ紙幣・硬貨の流通は 2002 年からである。
- ④ 中国の WTO 加盟は 2001 年である。

問 2  正解は①。

2014 年から国際収支の分類が新分類になったので、注意事項であるが、ここでは旧分類で説明する。経常収支 = 「貿易・サービス収支」 + 「所得収支」 + 「経常移転

収支」である。

- ① 経常収支の項目には、「貿易・サービス収支」および旅行・輸送など「サービス収支」が含まれる。
- ② 経常収支の項目には、「雇用者報酬」や利子・配当の「投資収益」の合計である「所得収支」を含む。
- ③ 経常収支の項目には、無償援助や労働者の送金などの、対価を伴わない取引「経常移転収支」を含む。
- ④ 「直接投資」は「証券投資」とともに「投資収支」に分類され、資本収支に含まれるので、経常収支には含まれない。

問3  正解は③。

BRICS(ブリックス)とは、ブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカの頭文字からとった語である。

問4  正解は②。

まず、Aが中国であるのは、成長率の高さから分かる。次に、2008年に大きな落ち込みをしたDは日本であり、輸出の大きな落ち込みが響いて大きくマイナスになった。1997年のアジア通貨危機の際に大きく落ち込んでいるCが韓国。よってBがブラジルである。

問5  正解は③。

- ③ 1979年のソ連のアフガニスタン侵攻に抗議して、西側諸国がモスクワオリンピックのボイコットをした。日本もオリンピックに不参加であった。これらの動きは新冷戦と呼ばれる。
- ① キューバ危機は1962年。
- ② ベルリンの壁の建設は1961年。
- ④ ビキニ環礁でのアメリカの水爆実験は1954～1958年に行われた。

問6  正解は③。

- ③ 誤り。多国籍企業の中には小国規模に匹敵する経済規模のものがあるが、世界第3位の経済大国、日本のGDPを上回るものは存在しない。
- ① 正しい。産業の空洞化は日本でも生じている現象。
- ② 正しい。現地国の水準向上に貢献する面は多々ある。
- ④ 正しい。資源ナショナリズムの高揚は、メジャーの石油資源に対する支配などが発端になった。

問7  正解は①。

需給曲線の変動, シフトを明確に理解しているかを問う問題。まず, 賃金上昇は生産コストの引き上げであるので, 供給曲線への影響として表れ, Aの方向にシフトする。ほかの条件は一定なので, 需要曲線は動かない。